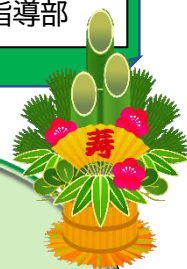




農大二中進路通信

令和 7 年1月8日(水)
第15号 農二進路指導部



飛翔のために必要なもの

明けましておめでとうございます。新しい年が始まりました。今年は巳年ということで、私たちに再び挑戦する勇気や、自分を成長させるチャンスを与えてくれる年なのかもしれません。ヘビは古くから神秘的な存在として、多くの文化や神話で特別な意味を持っています。特に「脱皮」という特徴から、再生や変化、成長の象徴とされています。人生で困難に直面したときも、まるでヘビが古い皮を脱ぎ捨てるように、自らを変化させ、新たな道を切り開く力を持つという教訓が込められています。さあ、今年も自分を成長させていきましょう。



さて、年始と言えば目標です。皆さんはどんな目標を胸に秘めていますか？この時期は、新たな気持ちで未来への一步を踏み出す絶好の機会です。2025 年最初の進路通信では、「飛翔」をテーマに、皆さんにメッセージを送りたいと思います。

飛翔、つまり空高く飛び立つこと。その姿を思い描くとき、多くの人は自由で気持ちよく飛びイメージを抱くでしょう。しかし、実際に飛翔するには強い力が必要です。そして、その力は必ずしも楽な道のりで得られるものではありません。飛行機や鳥が空を飛ぶとき、彼らは空気という目に見えない抵抗と常に戦っています。この抵抗があるからこそ、翼が揚力を得て空高く舞い上がることができるのです。

皆さんの人生における挑戦も同じです。勉強や部活動、人間関係…新しい目標に向かうときには、必ず何かしらの困難や壁が立ちはだかります。それは、飛翔における風の抵抗と似ています。抵抗を感じるとき、人はついそれを避けたいと思うかもしれません。しかし、その抵抗があるからこそ、私たちは成長し、さらに高い目標へ向かっていくことができるのです。例えば、試験勉強で難しい問題に直面すること。それは大きな負荷のように感じるかもしれませんが、それに向き合い、解決する力をつけたとき、皆さんは確実に力をつけています。そして、その力が次のステージへ進むための大きな揚力となるのです。

また、抵抗を乗り越えるには、ただ頑張るだけでなく、工夫や仲間の力も必要です。一人で抱え込まず、友人や先生、家族に相談することで新たな視点が得られるかもしれません。みんなで協力し合うことで、より高く飛び上がることができるのです。

2025 年は、皆さんがそれぞれの目標に向かって飛翔する年にしてください。そして、抵抗を恐れず、それを利用して前へ進む力を身につけていきましょう。新しい年の始まりに、この言葉を贈ります。



“風がなければ、翼は揚力を得られない”

皆さん一人ひとりが、目指す空へと羽ばたけるよう、心から応援しています！

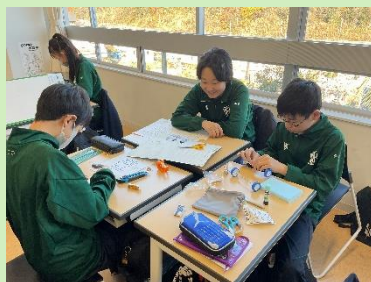
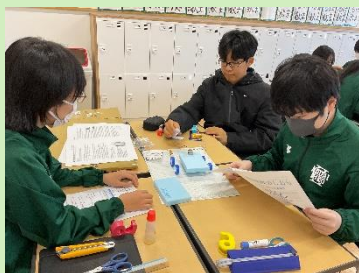


挑戦する心が未来を創る

12月19日(木)、中学1・2年生を対象に「Science Experiment Competition」を開催しました！今回のテーマは風力で車を走らせ、タイムを競う実験。生徒たちは風の力を利用して車を動かす方法について学び、自分たちのアイデアを形にするという貴重な体験をしました。1時間目にガイダンスを受け、その後約2時間かけて、チームごとに車の制作を行いました。課題は「いかにプロペラの形を工夫して効率的に車を前に進ませるか」。模造紙、モーター、ウレタンなどの限られた材料を使いながら、試行錯誤を繰り返す姿が見られました。

しかし、完成した車が思うように進まないことも。どれだけ考え抜いても、悔しい結果になることがあります。一方で、工夫が功を奏し、風力を利用して見事ゴールに到達したチームもありました。ここで大切なのは、「失敗」そのものに価値があるということです。成功したチームには成功の理由があり、失敗したチームにもまた学びの理由があります。それを考え、理解し、次の挑戦に活かすことが科学の本質です。

科学の歴史を紐解けば、偉大な発明や発見の裏には数え切れないほどの失敗が存在します。むしろ失敗があったからこそ、そこから学び、改善を重ね、科学は発展してきました。生徒の皆さんも、今回の挑戦を通して「失敗は成長の種」であることを実感したのではないのでしょうか。みなさんは未来のイノベーターになる人たちです。恐れずどんどん失敗していこう。そして失敗を糧に、次の目標へと歩みを進めてください。皆さんの挑戦する心が未来を切り開き、社会をより良い方向へと導いていきます。この経験を胸に、さらなる挑戦を楽しみにしています！



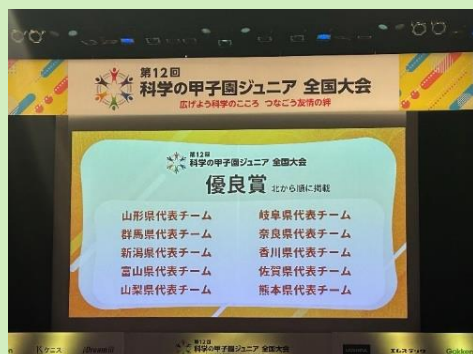
科学の甲子園ジュニア



2024年12月13日(金)から15日(日)にアクリエひめじで開催された「科学の甲子園ジュニア全国大会」において、本校中等部2年生の新井優太さん、堀田怜那さん、片山凜珠さんが、群馬大学共同教育学部附属中学校との合同チームとして参加しました。全国から集まる強豪チームを前に、彼らは筆記試験、実技競技①、実技競技②に果敢に挑みました。その努力の結果、見事に「優良賞」と「工作デザイン賞スカパーJSAT 賞」をダブル受賞し、全国大会初出場ながら輝かしい成果を残しました。

特に工作デザイン賞は、独創性や技術力が評価される名誉ある賞です。チーム全員が一丸となり、それぞれの得意分野を活かして挑戦した姿は、会場中の注目を集めました。彼らの挑戦心と協力の姿勢は、科学の楽しさと可能性を体現するものでした。

この快挙は、日々の努力が形となった証であり、全国大会という大舞台での挑戦がもたらした学びや経験は、彼らにとって大きな成長の一歩となりました。新井さん、堀田さん、片山さんの成果は、次に続く皆さんへの大きな刺激となるでしょう。中等部の皆さん、彼らの姿から「挑戦することの大切さ」を学び、自分の可能性を信じて新しい一歩を踏み出してみてください！



Z会の模試は一か月後

2月1日に控えるZ会模試。この模試は、難関の問題に挑む中で、自分の現在地を知る絶好の機会です。日頃の努力が試される場であり、結果に一喜一憂するのではなく、自分の課題を見つけ、次のステップに繋げることが大切です。Z会模試は、ただ知識を問うだけでなく、それを活用する力が求められます。問題を解く中で「分かっているのに得点できない」と感じる人もいるかもしれません。その原因の多くは、解答へのプロセスが曖昧だったり、問題文を読み取る力が不足していたりすることです。模試では、落ち着いて問題を読み、設問の意図を正確に把握することが重要です。また、模試の結果はあくまで通過点です。苦手分野やミスの原因を分析し、次に活かしましょう。「模試は本番の練習」と捉え、模試の復習を通じて本番への準備を整えることが成功への鍵です。挑戦を恐れず、全力を尽くしてください！

新しい学年に向けて、根っこを育てよう



皆さんは植物が春に美しい花を咲かせるために、冬の間どのように過ごしているかを考えたことがありますか？ 厳しい寒さの中、地面の上ではあまり成長が見えないかもしれませんが、その間にも植物は地下で根を伸ばし、春の準備を着実に進めています。根は栄養や水分を吸収し、植物全体を支える基盤です。根がしっかりと張られていれば、春の訪れとともに力強く芽を出し、美しい花や実をつけることができます。

このことは、私たち人間にも当てはまります。これからの 3 か月、皆さんは新学年や新たな挑戦が始まる春に向けて、自分自身の「根」を育てる大切な期間を迎えています。この根は、努力を通じて作り上げられる基盤であり、これが強ければ強いほど、4 月以降に目に見える成果を実らせることができるでしょう。例えば、勉強において、今の学びは直接的に成績や試験の結果に結びつかないかもしれませんが、しかし、基礎を固め、知識を積み重ねることは、後々大きな成長につながります。同じように、部活動でも冬の地道なトレーニングや反復練習は、春の大会で力を発揮するための重要な準備です。さらに、根を張るという行為は、一朝一夕では実現しません。植物が少しずつ土壌の中で根を伸ばしていくように、私たちも毎日の小さな努力を積み重ねていく必要があります。それは目に見える成果が現れる前の地味な過程かもしれませんが、そこで得た力は必ず未来の自分を支えてくれます。

また、根を育てる期間には、自分を見つめ直し、どんな目標に向かって成長したいのかを考えることも大切です。春にどのような花を咲かせたいのか、そのビジョンをしっかり持つことで、日々の努力に意味が生まれ、成長の方向性が定まります。

この冬、皆さん一人ひとりが自分の根を深く、強く張る時間を大切にしてください。そして、4 月には力強い芽を出し、鮮やかに咲き誇る花のように、自分自身を表現してほしいと思います。この 3 か月間が、皆さんにとって将来の成功を支える大切な基盤となるよう、共に頑張ってください！

今後の予定

1月 8日(水)	3学期始業式 2限 LHR *3限から通常授業
1月10日(金)	自宅学習日 *敷地内立入禁止
1月11日(土)	高校推薦・学業特待入試 *敷地内立入禁止
1月15日(水)	中2 5, 6限 職業人インタビュー
1月19日(日)	第2回中等部入試 *準備のため18日放課後より、中等部校舎立入禁止 19日は敷地内立ち入り禁止
2月 5日(水)	中1 東京スカイツリー・浅草研修 中2 科学未来館・キャリア研修
2月 6日(木)	中2 授業公開
2月 7日(金)	中1 授業公開
2月13日(木)	中1, 中2 プログミング チャレンジ
2月16日(日)	第3回中等部入試
2月21日(金)~26日(水)	3学期期末テスト